

## 令和7年度 キッズフロンティアⅢ番館(保育所等訪問支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日			～	2026年3月16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2		(回答者数)	2		
○従業者評価実施期間	2026年3月1日			～	2026年3月16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5		(回答者数)	2		
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日						

### ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の施設数が増える中で、各ケースへの対応時間と移動時間のバランスが取りにくくなっている。	訪問スケジュールの調整が担当者任せになっており、効率的な計画立案のための仕組みが整っていない。	訪問スケジュール管理ツールを導入し、移動効率と対応時間を考慮した計画を組める体制を整える。
2	訪問先によって支援ニーズや環境が大きく異なるため、標準的なアプローチの確立が難しい状況がある。	担当者がケースごとに一から対応方針を組み立てることが多く、過去の類似ケースの知見が活かされにくい。	ケースタイプ別の対応例集を作成し、担当者が参照しながら効率的に支援方針を立てられる仕組みをつくる。
3	訪問支援の終了後、その後の経過を把握する仕組みが十分でなく、支援の成果を継続的に確認することが難しい。	訪問支援終了後のフォローアップについてのルールが明確でなく、対応が担当者の判断に委ねられている。	終了後3か月・6か月での状況確認のルールを設け、必要に応じて再訪問や情報提供ができる体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先ごとに環境や支援体制が異なるため、統一した支援アプローチを維持することが難しい場面がある。	訪問担当者が個別に対応を判断することが多く、事業所としての方針や対応基準が十分に共有されていない。	訪問支援マニュアルと対応基準を整備し、担当者が変わっても一貫した支援が提供できる体制を構築する。
2	訪問件数が増える時期に記録や報告書の作成が追いつかず、訪問先へのフィードバックが遅れることがある。	訪問・記録・報告のサイクルが属人的な管理になっており、繁忙期に業務が滞りやすい構造がある。	記録テンプレートの整備と提出期限の明確化により、計画的に業務を進められる仕組みをつくる。
3	訪問支援の効果を数値や具体的な変化として把握・評価する指標が十分に整っていない。	支援の成果が「感覚的な手応え」にとどまりやすく、客観的な評価や改善サイクルに結びつきにくい状況がある。	観察シートや評価項目を標準化し、訪問ごとの変化を記録・比較できる仕組みを整え、支援の質の向上につなげる。